

## 「新型インフル」騒動

いやはや、大変な騒ぎでしたね。

医療職の知人が神戸と大阪にいますが、それはそれは尋常ではなかったと。週末の梅田のデパートは、いつも大混雑だそうですが、閑散としてお客さんがほとんどいない。地下街は閉店しているお店も目立ったとか。

そして一步外に出れば、「マスク人間」ばかり。

それも、みんな神妙な顔で。

咳をしようものなら、「誰だっ！」といわんばかりに注目される。

咳払い、くしゃみ、鼻をかむことが許されないような雰囲気。

「マスクなし」で外出しようものなら、エチケットとマナーに欠ける「非常識人間！」と冷たい視線を浴びせられ...

そして週刊誌の見出しには「**新型インフル、ついに日本上陸！！**」。

これじゃ「ゴジラ、ついに東京上陸！」です（笑）

「ゴジラ、東京タワーに進行中！付近の住民は直ちに避難ください！」

小学生の時に観たゴジラの映画を、つい思い出しました。

「マスク」品切れ。

インターネットでは、マスクのネットオークションが目立ったとか。

ネットオークションとは、インターネット上での「セリ」です。

「出品したマスクに一番高値をつけた人に落札する」という、なんともやるせない、「地獄の沙汰も金次第」のご時世です。

「感染者隔離」。

伝染防止という大義名分はあっても、強制的厳重隔離はいかがなものか？

隔離された若者に「新型インフルで厳重隔離された」という負のトラウマを与えかねません。「新型インフル、前科一犯」のような。

実際、感染した高校生が在籍する学校には「外に出すんじゃないぞ！」「学校は何やってるんだ！」という、クレームや嫌がらせの電話が相次いだとか。

騒げば騒ぐほど人々は不安になり、そして「差別意識」と「自分さえよければ」の考えが世の中に蔓延します。

## 新型インフル = 毒ガス？

まるで「宇宙服」を装備したかのような、完全防備の検疫官。  
インフルエンザウイルス = 「毒ガス」といった、異様な光景でした。  
ちょっとでも吸い込んだら、アウト（死）！  
触ったら、アウト！ みたいな…。

違いますって、たかが「風邪」ですよ！

と、こんなことを申しますと、真面目な方々からお叱りを受けるんですよね。  
新型インフル徹底予防を国民に啓蒙しているのに、なんと不謹慎な！と…（汗）

確かに医療人として、「たかが風邪でしょう」と言ってはいけないのかもしれませんが、「新型インフル感染 = 致死」でもなければ、C型肝炎ウイルスのように「感染 潜伏（体内に長期に居座る） 肝硬変・肝がん」でもないのです。  
感染しても自然治癒するのです。

新型だろうが何だろうが、「免疫力」を高めていれば大丈夫！

白血球が初めて出会う新型インフルは、白血球の「修行」になります（笑）。  
罹ることで、より強い、鍛えられた、たくましい白血球・免疫力になるのです。  
実際、ある専門家によりますと、今回新型インフルに罹った人は、次の強力な  
新型には罹らないそうです。逸早く新しい免疫を獲得したおかげで。

1日中マスクを付けて過ごすと、会話も少なくなり、笑顔も減るでしょうね。  
マスク姿は「しゃべりたくない」「聞かれない」「関わりたくない」という  
自己防衛の陰気な雰囲気を感じさせます。  
インフルエンザウイルスとの関係よりも、人間関係に支障が出そうです（笑）。  
過剰な「マスク依存」にご注意を。

今冬の風邪本番シーズンには「大騒動」になるであろうマスコミからの情報に  
対して、いかに左右されず、冷静に対応できるか、です。

「新型インフルエンザとて風邪の一種。大丈夫！大丈夫！」

「万ーインフルエンザに罹っても、必ず治る。心配ない！」

そう思えるためには、自らの免疫力を高める「努力」を怠らず、自らの健康法  
に「自信」を持つことが必要です。「努力」と「自信」。  
それを率先垂範している読者の皆さんは、「大丈夫！大丈夫！」

それにしても、豚さんたちが処分されずによかったですね。

鳥インフルにならって、豚も一斉処分するとなったら洒落になりませんよ。

「疑わしきは処分」を是とする風潮、なんとかなりませんかね…。

## 「いかに生きるか」が大切

さる5月2日未明、ロック歌手の忌野清志郎さんが、がん性リンパ管症でお亡くなりになりました。享年58歳。

某週刊誌の見出しに

「西洋医学大嫌いの忌野が信じてしまった玄米菜食法」とありました。

忌野さんが喉頭がんと診断されたのは06年7月。声帯を失うのを避け、医師が勧める外科手術は受けず、放射線治療と抗がん剤による治療を開始。

08年2月には武道館ライブで復活を果たします。

その後も「玄米菜食」で過ごし、西洋医学の治療は拒否。

しかし、その甲斐むなしく、がん宣告を受けて約3年でお亡くなりになられたわけですが、テレビに映った告別式は圧巻でした。多くの弔問者が参列され、会場には代表曲が流されていました。生前の素晴らしい人柄が偲ばれます。

「西洋医学を拒否した愚かな行為」という内容の記事かと思っていましてこのライターさん、なかなかの人物と感心しました。

「医師の指示どおりに咽喉摘出手術を受け、声を失って80歳まで生きることを彼が望んだらどうか。その答えは明らかだ。雨上がりの夜空に問いかけるまでもあるまい」(ちなみに「雨上がりの夜空」は忌野さんの代表曲です)。

西洋医学には「何のために生きているのか」「いかに生きるか」という人生観、死生観がありません。

「1日でも長く患者を生かすこと」。それが西洋医学の使命です。

だから、一方では「延命治療の是非」「尊厳死」の問題が出てくるわけです。

### 「何のために生きているのか？」

この質問に迷わず答えられる人は少ないと思います。

忌野さんは、即答できたでしょう。

「歌で多くの人達に元気と勇気を与えたい。それが俺の生きがいだ！」と。

「長生き」そのものが目標ではなく、「生きがい」を達成するために健康が必要なのだと思います。「長生き」だけが生きる目標ならば、死は「挫折」です。

現実、死は避けられません。ならば「人生は挫折で終わる」ということなのか？

そうではなく、先の「死」を受け入れつつ、今を「いかに生きるか」。

この観点が、生きる上で大切だと思います。

忌野さんは、現世に何の未練もなく昇天されたと思います。

「生きがい」を持って、今を生き抜いた、素晴らしい人生です。

これから必要なのは「自信」です！

皆さん、「自信」を持ちましょう！

新型インフル、北朝鮮の核ミサイル、地震、食糧・水不足、エネルギー資源不足（石油枯渇） 通り魔殺人、年金問題.....。

「不安」になる材料を挙げれば、切りがありません。

インターネットで、「2012年」と検索してみてください。

さらに不安になること間違いなし！

2012年は「アセンション(次元上昇)」に伴い、天変地異で人口が半減する。

皆さん、人類滅亡まで後3年だそうですよ。どうします？（笑）

日々ご相談の中で、かわら版で申し上げておりますが

「不安」「交感神経緊張」「血流低下」「免疫力低下」「病気」

この悪循環に陥らないように気をつけましょう！

「新型インフルエンザに罹ったらどうしよう～」「北朝鮮からミサイルが飛んできたらどうしよう～」「2012年に生き残れなかったらどうしよう～」

そんな先のことを案じていたら、治る病気も治りません。

「マイナス思考」には、太田東西の漢方も歯が立ちません。

なぜならマイナス思考には「不信感」「猜疑心」があるからです。

相手の言動を信じてことができなくなる。

何を信じてよいのか、わからなくなる。

わからないままだと不安だから、雑誌で、ネットで情報をせっせと集める。

しかし、根深い不信感から情報の取捨選択ができずに、また不安になる....。

太田東西の漢方・助言も信じてことが出来ないから、効かない....。

そうして「自信」「健康」「生きる喜び」を失っていくのです。

「新型インフルが怖い...」。不安で心配性の真面目過ぎる方々へ。

「バカは風邪を引かない」。そう、「バカ」になりましょう！

「バカバカしい！」って怒らないでくださいよ。

まったく、真面目過ぎるんですから～。